

友の会だより

令和8年
8月
No.58

秋田県立博物館友の会 〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山 52 Tel 018-873-4121 Fax 018-873-4123 E-mail : info@akihaku.jp

令和8年度友の会役員からの寄稿／活動報告

令和8年度秋田県立博物館友の会総会

令和8年4月26日(日)

役員会 10時30分～12時 (館職員含め4名)

総会 13時～13時50分 (館職員含め9名)

研修(企画展解説会) 14時～15時40分

今年度の会計予算案や事業計画案などをめぐり、活発な議論が交わされました。詳細は、前回(6月末に)送付しました会議資料をご覧ください。

今年度の県内研修は、以下の通り決定しました。

①第1回5月22日(金)…総会開催前に公表済み

佐竹史料館見学・千秋公園散策

②第2回 秋季…総会後、別紙の通り詳細が決定

小泉湯公園女湯に関する研修

また今年は役員改選も実施され、以下の通り新役員が承認されました。

会長…柿崎仁志氏(再任)

副会長…伊藤 真氏(再任)

佐川義則氏(新任：幹事兼任)

幹事長…岩間錬治氏(再任：副会長は退任)

幹事…沖田貞敏氏(新任)

佐川義則氏(再任)

会計…渡部 均氏(再任)

監事…鎌田幸男氏(新任)

総会終了後は展示室へ移動し、企画展「秋田の大地と成り立ち」の解説会を実施しました。展示担当職員の説明にも熱が入り、予定時間を大幅に上回る研修となりましたが、参加者は熱心に耳を傾けていました。

(事務局)



館内研修(企画展解説会)の様子

会長あいさつ

会長 柿崎仁志

「これまでの50年、これからの50年」

このたび、友の会会長として2期目を務めさせていただくこととなりました。友の会の活動が順調に進むよう、頑張っ

て参りたいと思います。秋田県立博物館は昨年度に開館50周年を迎えました。この50年の間に、秋田県の風景も大きく様変わりしてしまったと思います。そして、これからの50年もきっと大きく変わっていくことでしょう。菅江真澄が200年ほど前に記録した県内の様々な風景や風物を、貴重な記録資料として県立博物館では研究しているわけですが、もしかしたら真澄が記録した頃から県立博物館開館の頃までの秋田県の変化よりも、これまでの50年、そしてこれからの50年を加えた約100年の変化の方が大きいのではないか、そんな気さえします。

これまでの50年、これからの50年、変わりゆく秋田県の記録を収集保存するべく、県立博物館には先頭に立って頑張ってもらいたいと思いますし、友の会としてできる限り協力していきたいと感じています。

新役員自己紹介

幹事 沖田貞敏

私は動物や植物などの観察が趣味で、秋田自然史研究会を中心に活動しています。この会は「秋田県の生物相を明らかにし、その保護に努める」ことを目的として、会員約100人でいろいろな分野の観察や調査を行っています。また、大仙市健康文化活動拠点センター〔ペアーレ大仙〕で自然講座(植物)を担当し、月1回観察会を行っています。博物館の植物標本整理ボランティアは10年以上になります。

博物館友の会の活動にも参加していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

監事 鎌田幸男

私は平成26年度博物館教室「初めての古文書解説」に参加し、学芸職員の方々のご教示と会員の支援により今日に至ります。古文書同好会参加の動機は特異な

ものはなく、集落の公民館で眠っていた宝永2年の黒印御定書があり、荒地と化した田畑の耕作実態を知りたいと思い解説に駆られたのも遠因です。(自身の集落は)梅津政景日記元和7年「水島で飲食の絵図」で「この村豊穰なり」とありますが、田畑は出水に依存し、宝暦6年の男鹿村々所有穀物調では(人数258人、雑穀都合1人平均9升9合)とあり決して裕福ではありません。絹篩絵図で鱒網の説明文解説で少し古文書の知識が活かされましたが、解説は果てしない夢です。



令和8年度 第1回県内研修(春の研修) 「千秋公園 再考の散策」

ー見慣れた風景を、もう一度学びの眼でー

令和8年5月22日(金)

参加者 12名(会員以外含む、同行の館職員除く)

今回の研修会では、昨年10月にリニューアル開館した佐竹史料館の見学と、千秋公園のガイド付き散策を行いました。秋田市民にとって千秋公園は身近な存在ですが、あらためて専門家等の解説を聞きながら歩く機会は意外に少ないものです。佐竹史料館のリニューアルを機に、ツツジの見頃に合わせて企画した研修でした。当日は、暖かな日が続いた影響でツツジは盛りを過ぎていましたが、朝方までの雨も上がり、爽やかな空気の中で研修を行うことができました。

前半は佐竹史料館を見学し、学芸員の齊藤さんから、リニューアル後の見どころや展示の工夫について詳しくご案内いただきました。城下町の変遷を映像で紹介するプロジェクションマッピングや、タッチパネル式の名品データベースなど、新たに導入されたデジタルコンテンツも印象的でしたが、それ以上に、一つ一つの史・資料にまつわる興味深いエピソードに引き込まれ、75分間があったという間に感じられました。休憩時間には、ミュージアムショップで購入したソフトクリームを手に、展望テラスから千秋公園を眺めながら歓談する参加者の姿も見られました。



佐竹史料館展示室の見学(入口にて解説を受ける)

後半は、久保田城址歴史案内ボランティアの会の小林さんのご案内で千秋公園内を散策しました。久保田城の歴史だけでなく、明治以降に「千秋公園」として歩んできた歴史についても解説していただきました。例えば、明德館(図書館)脇の坂道が現在のようなスロープになったのは、東宮(のちの大正天皇)の行幸が契機だったというお話などから、普段何気なく目にしている風景にも歴史が刻まれていることを知り、参加者一同、熱心に耳を傾けていました。

参加者からは、「県外から友人や知人が訪れた際、自分で案内するときの参考になった」という声も寄せられました。身近な歴史や文化に直に触れることは、地域への理解を深め、人との交流を広げるきっかけにもなります。友の会では、今後も会員の皆さんに楽しみながら学んでいただける研修を企画してまいります。ぜひ気軽にご参加いただき、新たな発見をお持ち帰りいただければ幸いです。

(副会長 伊藤 真)



千秋公園の散策(ガイドさんからの解説を聞きながら)

事務局から

同封した別紙要項の通り、10月12日(月・祝)には当館を会場に、女潟湿原植物群落に関する秋の研修を実施します。秋田県立大学の蒔田明史先生を講師にお迎えし、県指定天然記念物に指定された博物館周辺の自然環境について学ぶ内容となります。会員の皆様にはお誘い合わせの上、ぜひふるってご参加いただければ幸いです。

また、「友の会」資料整理ボランティア(植物標本・古文書同好会・古文書整理・考古・地質)も定期的な活動を継続しています。少しでもボランティアのことが気になる方は、お時間のある時に活動の様子を見学してみませんか? 事前にご連絡いただければ、友の会事務局(博物館内)で対応いたしますので、お気軽にお問い合わせください。